

MACF 礼拝説教要旨

2022年5月22日

「罪深い女性へのイエス様の眼差し」

ルカによる福音書 7章

7:36 さて、あるファリサイ派の人が、一緒に食事をしてほしいと願ったので、イエスはその家に入って食事の席に着かれた。

7:37 この町に一人の罪深い女がいた。イエスがファリサイ派の人の家に入って食事の席に着いておられるのを知り、香油の入った石膏の壺を持って来て、

7:38 後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。

7:39 イエスを招待したファリサイ派の人はこれを見て、「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。

7:40 そこで、イエスがその人に向かって、「シモン、あなたに言いたいことがある」と言われると、シモンは、「先生、おっしゃってください」と言った。

7:41 イエスはお話しになった。「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。

7:42 二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」

7:43 シモンは、「帳消しにしてもらった額の多い方だと思います」と答えた。イエスは、「そのとおりだ」と言われた。

7:44 そして、女の方を振り向いて、シモンに言われた。

「この人を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、

この人は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた。

7:45 あなたはわたしに接吻の挨拶もしなかったが、この人はわたしが入って来てから、わたしの足に接吻してやまなかった。

7:46 あなたは頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた。

7:47 だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさで分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」

7:48 そして、イエスは女に、「あなたの罪は赦された」と言われた。

7:49 同席の人たちは、「罪まで赦すこの人は、いったい何者だろう」と考え始めた。

7:50 イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

ふたつの世界に生きている人たち

1) 自分は正しく、神に許される必要はないと感じている人

もしかすると、このファリサイ派のシモンという人は、「自分は許される必要はない。すでに清い、高貴な存在だ」と考えていたのだと思います。イエス様とファリサイ派の人たちは、ある意味、対立しました。

それなのに、なぜこのファリサイ派の人シモンはイエス様を招いたのでしょうか。

当時、大事な客や高貴なラビを招く場合、最初に足を洗ってあげるのが礼儀でした。しかし、「あなたは足を洗う水もくれなかった」（44節）と言ったことから、

彼はイエス様を大事な客とは考えていなかったことが分かります。

彼の意図は、今、人気絶頂のイエスを招くことで、イエス様をチェックし、自分の力と権威とを見せたかったのかもしれませんが。

一方

2) 神に許されなければ社会では厳しすぎて生きていけないと感じている人がいます。

許されたことへの感謝の気持ちを香油と涙とくちずけで表明した「罪深い女性」が登場します。

彼女は、「罪深い女」と皆に後ろ指をさされていたので、人前には出ることをなるべく避けていたに違いありません。しかし、人々の冷酷な目の間を通り抜け、主にささげる香油を携え、イエス様に近づき、自分の涙で主の足をぬらし、髪の毛でぬぐい、足に接吻し、香油を塗りました。

この女性が、自分をさらし者にしてまで出て来たのは、イエス・キリストが彼女の存在をうなずき、軽蔑せず、彼女の心の中も承知のうえ、あなたはそこにいてもよいのだ、と感じさせてくださったのです。

また彼女の罪の自覚と神の恵みの嬉しさが彼女にこういう行為をさせたのです。

社会的な比較では話にならない。立場も収入も人からの評価も。機能論的にはおそらくシモンは社会の中で高評価。

しかし、この罪深い女と呼ばれている人は社会的評価はゼロより低い。

おそらく、この出来事の後でも彼女は「罪人」というレッテルを貼られながら生きていったと思います。

3) 人の評価は「神の評価とは異なっている」

(イエス様の温かい眼差し)

この女性を高く評価する人は社会の中でこれから先もほとんど現れないと思います。

社会的には弱者のまま、軽蔑の対象のままかもしれません。

イエス様に香油を塗ったからと言って町の名士にはなれないのです。

軽蔑の対象のままかもしれません。

でも、そういう女性に対して、その信仰を評価し、そのあり方を評価し、そのイエス様への愛を高く評価しているのが「父なる神さまの憐れみ深さ」であり「神の愛」そのものです。

イエス様はこの女性の「愛の心」「感謝の心」をしっかり受け止め、それこそ尊いものとして評価しているのです。

その心がもたらされているあなたは清いと語るのです。

あなたの中に神への恐れ、神への感謝、イエス様への愛があるというその事自体が、神の愛と憐れみの御手が届いたからこそ

そういう気持ちになれたのです。

そうか、私のようなものでも神に愛されているのかということがわかったとき、勇気と希望と生きていたいという意欲が湧いてくるのです。

注目すべきは、この「罪深い女」と呼ばれた人へのイエス様の温かい眼差しです。

イエス様はこの人を責めていません。

むしろ、この人の心にある神への感謝と神への愛に目を留めておられます。

この女性は安堵したと思います。そして、これから先も社会からは疑われ、軽蔑されるようなことがあるとしても、彼女は神様からの

「生きていていいんだよ」という「赦しの言葉」を心に留めていたと思います。

一方、ファリサイ派の人たちは社会的な評価が落ちた時、彼らは逃げるところを持っていないので、常に人の目と人からの評価に気を使い

心の平安は持っていなかったのではないかと思います。

あるとすれば「自画自賛の心」「自己義認」ということだけです。

それはある意味、哀れな心かもしれません。

もう一度、この箇所をよく読み直して見てください。

そして、心に響く言葉を思い巡らし感じ取ってください。

祝福がありますように。

関根一夫

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/AZXOnLA3D8E>